

4 AI時代に拓かれる仏教の智慧の力

【全2回】／開催方法：オンライン

しも だ まさ ひろ
下田正弘

武蔵野大学教授
東京大学名誉教授



受講料 会員料金：¥5,000 早割価格：¥4,000(納入期限：7月7日)

【日程・時間】【全2回】

7月13日(月) 10:15~11:45/12:30~14:00

■受講に必要なもの

[テキスト] レジユメ配布

人類の知恵は、自然科学、社会科学、人文(科)学に分類される学問として発展してきました。そのなかで、自然科学は人体もふくむ物質世界に考察の光をあて、自然を改造し、再構築する知恵を生みだしてきました。この知恵を現実世界に役立てるためには、高度な技術の開発と、社会や国家単位でその営為を推進するシステムが必要となります。その役割を担ってきたのが、工学や社会科学でした。これらの科学は、近代以降、研究と教育の拠点を大学に置き、人間の便宜を自然界から引きだす大きな力を発揮してきました。

ところが、こうした眼前の現実の改造が、長期的に人類の幸福に資するの否かは、ほとんどの場合に当の学問の研究主題ではありません。科学技術の力と国家社会によるその推進が、戦争による大量殺戮や産業化の進行による地球環境の破壊に作用してしまうことは、まさに現代の切迫した課題であります。未来の世代もふくむ真の意味の幸福がいかにも実現されるかという課題は、これらの科学の営為とは並行して、独自に追究されなければなりません。

いま、さらに新しい問題が生まれてきました。これら研究の遂行に人工知能(AI)が絶大な力を発揮しはじめたことです。ことに生成AIは、あたかも自身を自力で改良してゆくように見える発展段階に達し、やがて人間の営為全体を凌駕し現実を自動的に改造してしまうのではないかという危惧を与えています。この問題の内実を見さだめ、進むべき方向を明らかにすることは、諸科学の成果に依存する現代の枢要なテーマです。

じつは、ここにこそ、仏教の智慧がはたらきを発揮します。本講義では、「ものごと、こころ、ことば」によって尽くされる、人知のもつ力と限界を照らし、すでにその先を開いている、仏教の智慧を見てみたいと思います。